

## D I ニュース

薬剤部 医薬品情報管理係

## 新規採用医薬品通知

(薬品名)	トラマールカプセル 25mg・50mg	劇
(英名)	Tramal Capsules 25mg・50mg	
(規格・含有量)	25mg/1Cap 1カプセル中に有効成分トラマドール塩酸塩 25mg を含有 50mg/1Cap 1カプセル中に有効成分トラマドール塩酸塩 50mg を含有	
(一般名)	トラマドール塩酸塩	
(メーカー名)	日本新薬	
【薬価収載日】	2010年9月	
【薬価】	(25mg1Cap: 37.70円) (50mg1Cap: 65.90円)	
【薬効コード】	871149	
【薬効分類名】	がん疼痛治療剤	
効能・効果	軽度から中等度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	
用法・用量	通常、成人にはトラマドール塩酸塩として1日100～300mgを4回に分割経口投与する。なお、症状に応じて適宜増減する。ただし1回100mg、1日400mgを超えないこととする。	
禁忌	①本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 ②アルコール、睡眠剤、鎮痛剤、オピオイド鎮痛剤又は向精神薬による急性中毒患者 ③モノアミン酸化酵素阻害剤を投与中の患者、又は投与中止後14日以内の患者 ④治療により十分な管理がされていないてんかん患者	
相互作用	他剤副作用増強 ①ジゴキシン、②クマリン系抗凝固剤(ワルファリン) 本剤作用減弱 ①カルバマゼピン ②オンダンセトロン塩酸塩水和物 ③ブプレノルフィン、ペンタゾシン等 本剤他剤作用増強 キニジン 本剤他剤副作用増強 ①オピオイド鎮痛剤 ②中枢神経抑制剤(フェノチアジン系薬剤、催眠鎮静剤等)、③三環系抗うつ剤、④セロトニン作用薬〔選択的セロトニン再取り込み阻害剤(SSRI)等] ⑥アルコール	
副作用	重大な副作用 ショック、アナフィラキシー様症状、痙攣、依存性 その他 悪心、嘔吐、食欲不振、便秘、傾眠、浮動性めまい、頭痛など	

(薬品名)	フェブリク錠 20mg	市販直後調査 平成23年5月～平成23年11月
(英名)	Feburic Tablet 20mg	
(規格・含有量)	20mg/1錠 1錠中に有効成分フェブキソスタット 20mg を含有	
(一般名)	フェブキソスタット	
(メーカー名)	帝人ファーマ	
【薬価収載日】	2011年3月	
【薬価】	1錠: 56.40円	
【薬効コード】	873949	
【薬効分類名】	非プリン型選択的キサンチンオキシダーゼ阻害剤 高尿酸血症治療剤	
効能・効果	痛風、高尿酸血症	
用法・用量	通常、成人にはフェブキソスタットとして1日10mgより開始し、1日1回経口投与する。その後は血中尿酸値を確認しながら必要に応じて徐々に増量する。維持量は通常1日1回40mgで、患者の状態に応じて適宜増減するが、最大投与量は1日1回60mgとする。	
禁忌	①本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 ②メルカプトプリン水和物又はアザチオプリンを投与中の患者	
相互作用	他剤副作用増強 ビダラビン ジダノシン	
副作用	重大な副作用 肝機能障害 過敏症 その他 関節痛、四肢不快感、四肢痛など	

(薬品名)	トラムセット配合錠	劇 市販直後調査 平成23年7月～平成24年1月
(英名)	TRAMCET Combination Tablets	
(規格・含有量)	1錠中に有効成分トラマドール塩酸塩 37.5mg/アセトアミノフェン 325mg を含有	
(一般名)	トラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠	
(メーカー名)	ヤンセンファーマ	
【薬価収載日】	2011年7月	
【薬価】	1錠:68.20円	
【薬効コード】	871149	
【薬効分類名】	慢性疼痛/抜歯後疼痛治療剤	
効能・効果	非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記疾患における鎮痛 非がん性慢性疼痛、抜歯後の疼痛	
用法・用量	① <b>非がん性慢性疼痛</b> 通常、成人には、1回1錠、1日4回経口投与する。投与間隔は4時間以上空けること。なお、症状に応じて適宜増減するが、1回2錠、1日8錠を超えて投与しないこと。また、空腹時の投与は避けることが望ましい。 ② <b>抜歯後の疼痛</b> 通常、成人には、1回2錠を経口投与する。なお、追加投与する場合には、投与間隔を4時間以上空け、1回2錠、1日8錠を超えて投与しないこと。また、空腹時の投与は避けることが望ましい。	
禁忌	①アルコール、睡眠剤、鎮痛剤、オピオイド鎮痛剤又は向精神薬による急性中毒患者 ②モノアミン酸化酵素阻害剤を投与中の患者、又は投与中止後14日以内の患者 ③治療により十分な管理がされていないてんかん患者 ④消化性潰瘍のある患者 ⑤重篤な血液の異常のある患者 ⑥重篤な肝障害のある患者 ⑦重篤な腎障害のある患者 ⑧重篤な心機能不全のある患者 ⑨アスピリン喘息(非ステロイド製剤による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者 ⑩本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	<b>本剤他剤副作用増強</b> ①オピオイド鎮痛剤 ②中枢神経抑制剤(フェノチアジン系薬剤、催眠鎮静剤等) ③アルコール(飲酒)④三環系抗うつ剤 セロトニン作用薬(選択的セロトニン再取り込み阻害剤(SSRI)等) <b>他剤副作用増強</b> ①クマリン系抗凝血剤(ワルファリン) ②ジゴキシン <b>本剤作用減弱</b> ①カルバマゼピン ②フェノバルビタール ③フェニトイン ④プリミドン ⑤リファンピシン ⑥イソニアジド ⑦プロプレノルフィン、ベンタゾシン等 ⑧オンダンセトロン塩酸塩水和物 <b>本剤他剤作用増強</b> キニジン <b>本剤作用減弱・他剤作用増強</b> エチニルエストラジオール含有製剤	
副作用	<b>重大な副作用</b> ショック、アナフィラキシー様症状 痙攣 依存性 中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis: TEN)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson 症候群) 喘息発作の誘発 肝機能障害、黄疸 顆粒球減少症 <b>その他</b> 傾眠、浮動性めまい、頭痛、悪心、嘔吐、便秘、胃不快感など	

(薬品名)	リクシアナ錠 30mg	市販直後調査 平成23年7月～平成24年1月
(英名)	LIXIANA TABLETS	
(規格・含有量)	30mg/1錠 1錠中に有効成分エドキサバントシル酸塩水和物 40.4mg(エドキサバンとして30mg)を含有	
(一般名)	エドキサバントシル酸塩水和物錠	
(メーカー名)	第一三共	
【薬価収載日】	2011年7月	
【薬価】	1錠:727.30円	
【薬効コード】	873339	
【薬効分類名】	経口FXa阻害剤	
効能・効果	下記の下肢整形外科手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制 膝関節全置換術、股関節全置換術、股関節骨折手術	
用法・用量	通常、成人には、エドキサバンとして30mgを1日1回経口投与する。	
禁忌	①本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 ②出血している患者(頭蓋内出血、後腹膜出血又は他の重要器官における出血等) ③高度の腎機能障害(クレアチニンクリアランス 30mL/min未満)のある患者 ④急性細菌性心内膜炎の患者	
相互作用	<b>本剤他剤副作用増強</b> ①抗凝固剤(ヘパリンナトリウム、ワルファリンカリウム、エノキサパリンナトリウム、フォン	

	ダパリヌクスナトリウム等) ②血小板凝集抑制作用を有する薬剤(アスピリン、ジピリダモール、チクロピジン塩酸塩、クロピドグレル硫酸塩、非ステロイド性消炎鎮痛剤等) ③血栓溶解剤(ウロキナーゼ、t-PA 製剤等) <b>本剤副作用増強</b> P糖蛋白阻害作用を有する薬剤(キニジン硫酸塩水和物、ペラパミル塩酸塩、アミオダロン塩酸塩、エリスロマイシン、イトラコナゾール等)
副作用	<b>重大な副作用</b> 出血 <b>その他</b> 皮下出血、血尿(尿中血陽性等)、創傷出血、 $\gamma$ -GTP 上昇、ALT(GPT)上昇など

(薬品名)	<b>ミルセラ注シリンジ</b> <b>25 <math>\mu</math>g・50 <math>\mu</math>g・100 <math>\mu</math>g・150 <math>\mu</math>g</b>	劇 市販直後調査 平成 23 年 7 月～平成 24 年 1 月
(英名)	MIRCERA Injection Syringe	
(規格・含有量)	25 $\mu$ g/1筒 1シリンジ(0.3mL)中有効成分エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え)25 $\mu$ gを含有 50 $\mu$ g/1筒 1シリンジ(0.3mL)中有効成分エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え)50 $\mu$ gを含有 100 $\mu$ g/1筒 1シリンジ(0.3mL)中有効成分エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え)100 $\mu$ gを含有 150 $\mu$ g/1筒 1シリンジ(0.3mL)中有効成分エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え)150 $\mu$ gを含有	
(一般名)	エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え)注	
(メーカー名)	中外製薬	
【薬価収載日】	2011 年 7 月	
【薬価】	(25 $\mu$ g1筒:6,969.00 円) (50 $\mu$ g1筒:12,507.00 円) (100 $\mu$ g1筒:22,445.00 円) (150 $\mu$ g1筒:31,600.00 円)	
【薬効コード】	873999	
【薬効分類名】	持続型赤血球造血刺激因子製剤	
効能・効果	腎性貧血	
用法・用量	<b>&lt;血液透析患者&gt;</b> ①初回用量 通常、成人にはエポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え)として、1回 50 $\mu$ gを2週に1回静脈内投与する。 ②エリスロポエチン(エポエチンアルファ(遺伝子組換え)、エポエチン ベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切替え初回用量 通常、成人にはエポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え)として、1回 100 $\mu$ g 又は 150 $\mu$ gを4週に1回静脈内投与する。 ③維持用量 貧血改善効果が得られたら、通常、成人にはエポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え)として、1回 25～250 $\mu$ gを4週に1回静脈内投与する。 なお、いずれの場合も貧血症状の程度、年齢等により適宜増減するが、最高投与量は、1回 250 $\mu$ gとする。 <b>&lt;腹膜透析患者及び保存期慢性腎臓病患者&gt;</b> ①初回用量 通常、成人にはエポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え)として、1回 25 $\mu$ gを2週に1回皮下又は静脈内投与する。 ②エリスロポエチン(エポエチンアルファ(遺伝子組換え)、エポエチン ベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切替え初回用量 通常、成人にはエポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え)として、1回 100 $\mu$ g 又は 150 $\mu$ gを4週に1回皮下又は静脈内投与する。 ③維持用量 貧血改善効果が得られたら、通常、成人にはエポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え)として、1回 25～250 $\mu$ gを4週に1回皮下又は静脈内投与する。 なお、いずれの場合も貧血症状の程度、年齢等により適宜増減するが、最高投与量は、1回 250 $\mu$ gとする。	
禁忌	本剤の成分又はエリスロポエチン製剤・ダルベポエチン アルファ製剤に過敏症の患者	
相互作用	—	
副作用	<b>重大な副作用</b> 脳出血、心筋梗塞、高血圧性脳症、ショック、アナフィラキシー様症状、赤芽球癆 肺梗塞(類薬)、脳梗塞(類薬)、肝機能障害(類薬)、黄疸(類薬) <b>その他</b> 血圧上昇、好酸球数増加、シャント閉塞・狭窄など	

## 削除医薬品通知

### ●9月1日より

カルゲート錠 10mg	削除
レーメントール「ホエイ」散	削除
アリプロスト注 5 $\mu$ g	削除
クリノリル錠 100mg	削除
ラコール配合経腸用液 200mL	削除
エボジン注シリンジ 1500	削除
アルサルミン細粒 90%	削除

## 適応追加通知

<p>プログラフカプセル 0.5mg・1mg          プログラフ細粒 0.2mg ヒート          プログラフ注射液 2mg</p>	<p><b>小腸移植</b>          (カプセル)          通常、初期にはタクロリムスとして1回 0.15mg/kg を1日2回経口投与する。以後、徐々に減量して有効最小量で維持する。          (注射液)          通常、タクロリムスとして1回 0.10mg/kg を生理食塩液又はブドウ糖注射液で希釈して24時間かけて点滴静注する。内服可能となった後はできるだけ速やかに経口投与に切り換える。</p>
<p>グラセプター カプセル 0.5mg・1mg</p>	<p><b>小腸移植</b></p>
<p>レミケード点滴静注 100</p>	<p>(用法・用量追加)          &lt;クローン病&gt;          通常、体重 1kg 当たり 5mg を1回の投与量とし点滴静注する。初回投与後、2週、6週に投与し、以後8週間の間隔で投与を行うこと。なお、6週の投与以後、効果が減弱した場合には、体重 1kg 当たり 10mg を1回の投与量とすることができる。</p>
<p>グレースビット錠 50mg</p>	<p>(用法・用量追加)          通常、成人に対してシタフロキサシンとして1回 50mg を1日2回又は1回 100mg を1日1回経口投与する。なお、効果不十分と思われる症例には、シタフロキサシンとして1回 100mg を1日2回経口投与することができる。</p>
<p>ゲムシタピン点滴静注用 200mg・1g</p>	<p><b>隣癌、がん化学療法後に増悪した卵巣癌</b></p>

**医薬品変更通知**

今回採用医薬品（採用）	従来採用医薬品（削除）
ラコール NF 配合経腸用液 200mL	ラコール配合経腸用液 200mL

**規格追加通知**

今回採用医薬品
<b>●<u>9月1日より</u></b> コージネイト FS バイオセット注 2000